こどもの城ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2006・8・15 NO.174

発行／〔こどもの城〕広報部☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

ふぉとぐらふ

駐車場にとまっている1台の自動車。強い雨に耐えている。体のしんまでびしょぬれだ。

ザァザァ、バチャバチャ――強い雨の音が見える。足音や話し声など、生活を感じさせる音は、かき消されて聞こえてこない。はね返った雨が白いベールですべてを包み込む。モノクロームの世界。

乗用車をおおうカバーが、ぴったりとはりついている。ドアやボディーの形がくっきりと浮きでて、乗用車の形が細部まで分かる。マシンである自動車の曲線が、人間らしさ、ぬくもりを感じさせてくれるから不思議だ。

（写真：中根静男／文：たかべ　としき）

不思議な映像実験室

えがいた絵が動き出した！

私たちの身の回りには、“動いて見える映像”があふれています。ビデオ（カメラ）、ビデオゲーム、パソコン、携帯電話などの普及につれて、いろいろなところで、いろいろな形で“動いて見える映像”に接するようになりました。文字や言葉では伝えにくい、色・形・動きなども“見たまま”に伝えることができるからです。

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部では、『不思議な映像実験室』というタイトルで、“動いて見える映像”の仕組みを体験するワークショップを行っています。取り上げるプログラムの多くは、映画が発明される前からあった“視覚がん具”。動かないはずの絵が、視覚がん具に組み込まれると――。「動きだした！」「動いてみえる！」「おもしろ～い」。このような“おどろき”をきっかけに、映像に興味を持ってもらおうというプログラムです。

「ムービーミエール」

「ピンホールカメラ」

2枚の絵で作る「くるくるアニメ」

映画が発明されたのは、今から100年ほど昔。視覚がん具の動いて見える仕組みと、写真の技術が結びついて誕生しました。だから視覚がん具のなかに、映画＝“動いて見える映像”の原点を見つけることができるのです。

平常期間の毎週土曜日に音楽ロビーで行っている『不思議な映像実験室』では、2枚の絵だけで作る**「くるくるアニメをつくろう」**を取り上げています。「マジックロール」と呼ばれているものですが、〔こどもの城〕では親しみやすく「くるくるアニメ」と呼んでいます。

最初の絵を台紙にえがき、その絵に紙を重ねてなぞるように2枚目の絵をかきます。このときに、絵がらを少しかえると（開いた口と閉じた口、上にあげた手と下にさげた手など）、かえたところが動いてみえます。線や点などのもようでも、不思議な動きを楽しむことができます。

1枚では作れませんが、絵が2枚あれば“動いて見える映像”を作ることができます。いちばん小さな“アニメ・映画”と言えるかもしれません。

「くるくるアニメ」

「驚き盤」

連続した動きが楽しめる「驚き盤」

2枚の絵で作る“くりかえし”のアニメの楽しさを知ると、連続した動きのアニメが作りたくなります。『サタデー・ラボラトリー』で取り上げる**「驚き盤（おどろきばん）」「ゾートロープ」**、『夏休み映像・科学ワークショップ』の**「プラクシノスコープ」「キノーラ」**などで、連続した動きが楽しめます。

「驚き盤」は、細いスリット（向こう側を見るためのすき間）が入った、片面が黒、片面が白の丸い紙。回転できるように、中央をピンで割りばしに止めてあります。白い面のスリットとスリットの間に絵をえがきます。絵を鏡に映し、回転させながらスリットごしにみると、絵が動いて見えます。

目の前にスリットがきたときには、鏡に映った絵が見えます。スリットがとおりすぎると、視界は黒い紙でさえぎられます。このくりかえしで、絵が1枚ずつ順番に目の前に現れるのです。これは、映画の仕組みそのもの。映画館のスクリーンには、いつも画面が映しだされているように見えますが、実は驚き盤と同じように画面が現れたり消えたりをくりかえしています。1秒間に24コマ（画面）という早さなので、気づかないだけなのです。

「ソーマトロープ」

手書きアニメ「フィルムに絵を描こう」

平常期間の日曜日（月1回）の『不思議な映像実験室』には、**「フィルムに絵を描こう」**というプログラムもあります。視覚がん具というよりも映画そのものを体験するプログラム。映画館の上映で使うものと同じ35mmの映画フィルムに、直接絵をえがいたり、色をぬったりして、ムビオラという機材を使って小さなスクリーンに映して見ます。

映画フィルムには、連続した写真が焼き付けられています。写真のかわりに、1枚ずつ絵をえがいていくと、「驚き盤」などで経験したように、絵が動いて見えるはず。手書きのアニメが作れます。

35mmの映画フィルムを楽しめる〔こどもの城〕オリジナルの視覚がん具**「ムービーミエール」**を作るワークショップも、夏休み映像・科学ワークショップで行っています。

2つの絵が重なって見える「ソーマトロープ」

“動いて見える映像”のほかにも、“みる”“うつる”などの不思議を体験するプログラムもあります。その一つが**「ソーマトロープ」**です。土曜日と日曜日の『不思議な映像実験室』で取り上げています。見たものが目の中に残る“残像”という仕組みを利用したもので、映画などが動いて見えることに深く関係しています。

表と裏に別々の絵を書いて、2つの絵がくりかえし見えるように素早く回転させると、2つの絵が重なって1つの絵に見えてきます。例えば、空っぽの鳥カゴと枝にとまっている鳥を表と裏に書いて回転させると、鳥カゴのなかに鳥がいるように見えます。紙を回転させるだけで、鳥をつかまえることができるマジックです。

『不思議な映像実験室』では、だれもが楽しめるように背景となるような絵がらを片面にえがいたものを用意しています。秋なら月見、ハロウィンならかぼちゃというように、季節にあわせた絵がらで楽しめるように工夫しています。

カメラのルーツ「ピンホールカメラ」

“見たまま”を伝えようとすると、景色をそのまま写しとるにはどうすればよいかも考えるようになります。日曜日の『不思議な映像実験室』で取り上げている**「ピンホールカメラを作ろう」**は、すべてのカメラのルーツにあたる視覚がん具作りです。針であけた小さな穴がレンズと同じ役割をしてスクリーンに外の景色の“像”を結びます。ピンホールカメラでは像を見るだけですが、光の量に応じて反応するようなもの（フィルムなど）をおけば、像を保存しておくことができます。

愛知県児童総合センターが再オープン
10月9日まで「みんな・あそぶ！展」

愛知県児童総合センター（Aichi Children's Center＝ACC）が、7月15日に再オープン。「愛・地球博」開催にともなって4年間休館していましたが、“ただいまッ！”と元気にもどってきました。

再オープン特別企画は、96年7月に開館してからこれまでに開発・実施してきたたくさんの遊び、新しいセンターでの遊びが体験できる“遊びの博覧会”「みんな・あそぶ！展～かえってきたよACC」。10月9日まで開催しています。（写真左＝再オープンセレモニー、上＝愛知県児童総合センター外観）

人と地球の、自然なサイクルのために。

人と自然が調和する持続可能な社会の実現をめざして、
富士通グループ15万人、ひとりひとりの力をすべて結集します。私たちは、最先端のITと、
環境テクノロジーをベースにお客さまにご提供する製品、
ソリューション、マネジメントなど事業活動の全領域を通じて、
さまざまな環境活動を行いながら、豊かな地球環境の未来を創造していきます。

すべてをグリーンにします
jp.fujitsu.com/about/eco

FUJITSU
THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

夏の一夜の「月猫えほん音楽会」たくさんの仲間と楽しみました

「月猫えほん音楽会」が、今年も七月二十一～二十三日に青山円形劇場で開かれました。猫だけが知っている特別な音楽会。子どもたちは、フェイス・ペインティングで猫に変身して会場に集まりました。まんまるの月に絵本を映し出し、ジャズピアノの即興演奏にあわせた読み聞かせ。子猫、父猫、母猫に手伝ってもらって、「さるかに合戦」のおはなしにあわせたパントマイム・コーナー――ステージと客席が一体となって、夏の一夜の「月猫えほん音楽会」を楽しみました。

主催は、(財)こども未来財団、こどもの城。

打楽器演奏、リラックス体操など「マタニティ・コンサート」楽しむ

「第二十一回こどもの城マタニティ・コンサート」が七月二日に青山円形劇場で開かれ、これからお母さんになる人はもちろん、お父さんになる人も一緒に、約二百人が参加。楽しいひとときを過ごしました。

宮本妥子さんと、中路友恵さんの二人を招き、マリンバや打楽器の演奏を中心に、リラックス体操、小児科と産科の医師によるメディカルトーク、打楽器演奏とコラボレーションした絵本の読み聞かせ――バラエティーにとんだプログラム。スプーンを楽器として使って演奏する珍しい曲、木琴の先祖にあたるアフリカのバラフォンの演奏などを楽しみました。

水の安全「ハイ&ライフセービング」着衣のままの水泳などを体験

水辺の事故を防いで、楽しい夏休みを過ごしてもらおうと、七月十七日に地下二階のプールで「ハイ&ライフセービング」が開かれ、子どもとその保護者、約四十人が参加しました。溺れそうになったり溺れた人をみつけたときにライフセーバーにどう伝えればよいか、着衣のまま水に入ってしまったときの対処のしかた、服を浮き輪にする方法など、プールに入って実際に体験してみました。

海辺の危険な場所、自然や生きものなどについてのレクチャーのほか、レスキューチューブなどの道具を使った救助のデモンストレーションも行われました。

講座の子どもたちも手伝って「ガムラン一日体験教室」を開催

インドネシアの民族音楽「ガムラン一日体験教室」が、七月九日の「ガムラン講座」終了後に、Aスタジオで開かれました。

ガムランは、青銅製の打楽器を中心としたオーケストラ。いろいろな形や大きさの楽器で合奏します。たたいて音を出す楽器なので、初めての人も合奏に加わることができます。参加した親子は、いろいろな楽器を順番に体験、合奏を楽しみました。

講座の子どもたちも、楽器の前に座って、たたく場所を指で示して、お手伝い。ガムランの楽しさを伝えていました。「ガムラン講座」は、小学一年生～高校三年生が対象。日曜日に開講しています。

こどもの城となかまたち

10月18～20日にこどもの城児童厚生員等実技指導講習会

子どもの遊びを広げる力 ～遊びの専門技術　応用編～

9月13日午前11時から先着順に受け付け

平成18年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会が、10月18～20日に〔こどもの城〕で開かれます。テーマは「子どもの遊びを広げる力～遊びの専門技術　応用編～」。

児童館などで子どもの遊びにかかわる専門職には、さまざまな知識や技術が必要とされています。特に、子どもたちの遊び環境が保障されにくい現代社会において、“遊びの援助”は今まで以上に重要な役割があると考えられます。今回は、子どもの遊びをより豊かにしていくために必要な人的・物的環境について考えていきます。日常の活動のなかで、どのように子どもへアプローチしているのかを振り返りながら、専門職としてのあり方を模索します。

講習会の主な内容（予定）は以下のとおり。都合により変更することもあります。

講義「児童健全育成と子どもの遊び」／ワークショップ・事例研究「子どもの遊び、援助のポイント」／ワークショップ・プログラムメーキング「遊びのアレンジ力」／「子どもの遊びを広げる児童館力～子どもの遊び環境を考える」ほか。

開催要項は以下のとおりです。9月13日11時から、先着順に電話で受け付けします。

■日時■10月18～20日（2泊3日）
■場所■〔こどもの城〕研修室
■対象■児童厚生施設などに勤務する児童厚生員等の指導職員、行事などの企画担当職員など。
■定員■50人（先着順）
■参加費■35,000円（宿泊・食費23,000円、研修費12,000円）
■お申し込み■9月13日11時から先着順に電話で受け付け。定員になりしだい締め切り。1回線で4人までの受け付けとさせていただきます。

お問い合わせ・お申し込みは、企画研修部【03-3797-5675】へ。

小中学生のための社会福祉講座　じょいんクラブ　受講生募集中

一人ひとりを大切に“すてきな社会”考える

9月からスタートする、小中学生のための社会福祉講座「じょいんクラブ」の受講生を募集しています。新しい人やものと出会って、自分のことを好きになったり、仲間のよさに気づいたり――自分も他人も、一人ひとりの人間を大切にした“すてきな社会”を考える講座です。

“じょいん”というのは、英語のJOY（楽しむ）とJOINT（つながり）の2つの言葉をつなげて作った、新しい言葉。いろいろな人と出会い、仲間になる――人間関係作りのすばらしさを多くの人に広げていきたいという思いがこめられた言葉です。

「じょいんクラブ」のメンバー同士が仲よくなるだけではなく、活動をとおして体験したことを生かして、〔こどもの城〕に遊びに来る人たちに“人とのふれあいの楽しさ”を伝えるためのワークショップを企画・運営します。

具体的な活動内容は――。(1)“手話”を学び、そこからみんなの生活している社会を考える(2)〔こどもの城〕の外に出て自然にふれたり街を探りながら新しい発見をする活動を仲間とする（3）子ども同士がふれあう楽しいワークショップを企画する――の3つ。

昨年は、手話を取り入れた「クリスマスクイズ大会」を行いました

手話を学ぶのは3回。NHK教育テレビの手話ニュースでキャスターとして活躍している手話通訳士の中野佐世子さんが講師です。講座の最終日には「じょいんクラブ」で学んだこと、感じたことを〔こどもの城〕に遊びに来た子どもたちに伝えるワークショップを行う予定です。

□**じょいんクラブ**□
対象＝小学4年生～中学生
定員＝20人
講座開講日＝9月10日、10月14・15（合宿）、29日、11月19、26日、12月3、17日、平成19年1月21日、2月4、18日（日曜日。全10回）
時間＝1時30分～3時30分（原則）
受講料＝12,000円（別途、登録料1,000円が必要です）
※詳しい講座内容については、企画研修部（担当＝熊澤、佐野、渡邊）【03-3797-5675】まで。

9月開講の講座・クラブ
受講生募集中
募集コースなど、詳しくは講座・クラブ受付【03-3797-5666】にお問い合わせください。

〔こどもの城〕の夏休みは8月31日まで

あそび。元気。夏、パワー。

あそび。元気。夏、パワー。――〔こどもの城〕の夏休みも残り少なくなりました。「パソコンであそぼう フォト・ペタ・コラージュ」（パソコンルーム）、「世界をあそべ！ わんぱくツアー」（音楽ロビー）、「不思議な映像実験室」（Bスタジオ）、「キャッスルスポーツゲームズ2006」（体育室）など、楽しいプログラムがいっぱい。後半のプログラムのなかから、「夏をあそびつくせ！ スプラッシュフェスタ」（ふしぎが丘）と「ハイ地～図！ オシロタウンに家をたてよう」（プレイホール）を紹介します。

ハイ地～図！オシロタウンに家をたてよう

8月18～27日／プレイホール

「ハイ地～図！オシロタウンに家をたてよう」は、プレイホールが会場。ゲームに参加していろいろなパーツを集め、家を作るプログラムです。

最初に、家の壁と屋根をゲットするために、ゲームに参加します。高得点をあげると、大きな家を建てることもできます。

次に、いろいろなゲームに参加してポイントを集め、“ホームセンター”でドアや窓などのパーツを手に入れます。パーツを組み合わせて、自分だけの家を作ります。“オシロタウン役場たてもの課”に登録すると住民票が発行され、オシロタウンに家を建てる（地図に家をはりつける）ことができます。

お知らせ
〔こどもの城〕は、9月1日(金)と4(月)～6(水)日は特別休館日です。

夏をあそびつくせ！スプラッシュフェスタ

8月26・27日／ふしぎが丘

「夏をあそびつくせ！ スプラッシュフェスタ」は、水を使った遊びのプログラム。会場は屋上ふしぎが丘。水に浮かべて遊ぶおもちゃを使ったゲーム「スプラッシュレース」、たこ釣りゲームの「スプラッシュタコラッシュ」など、ボランティアのお兄さん・お姉さんが集まって楽しい遊びを考えています。おもいっきり水鉄砲を打ちあう大会も計画中。

「夏だから、みんなで元気に楽しく“水遊び”できるプログラムを考えています。濡れてもかまわないように準備して、遊びに来てください」と、担当者。

青山太鼓見聞録～打ち込みの美学

8月29日　青山劇場

太鼓は戦後生まれの“もっとも新しい日本の伝統音楽”。昔から祭や民俗行事、古典芸能などに用いられていましたが、太鼓の演奏自体が“音楽”として独立するのはそんなに昔のことではありません。

3回目を迎える「青山太鼓見聞録」では、日本の太鼓の魅力の一つ“打ち込み”に焦点をあてます。それぞれの演奏者が打ち込む一打一打に耳をすまし、太鼓から繰り出されるさまざまな音（色）を楽しんでください。伝統ある民俗の太鼓と現代の創作太鼓の演奏家が思いを込めた“打ち込み”を披露します。

出演は、「大太鼓」（アート・リー、山部泰嗣）、「三つ打ち」（炎太鼓）、「源流太鼓」（ゆふいん源流太鼓）、「JINGI」（藤本吉利、今福優）、「弓ヶ浜の祭太鼓」（南伊豆町湊）、「大太鼓」（藤本吉利＋地下朱美、今福優＋木下千恵子、締め太鼓＝山田瑞恵、浅野町子）。開演は7時。S席＝4,000円、A席＝3,500円。お問い合わせは、青山劇場【03-3797-5678】へ。

土曜日プログラム

小・中学生だからこそおもしろい“遊び”がいっぱい

夏休みや児童福祉週間（ゴールデンウイーク）などの特別期間を除く土曜日を中心に、小・中学生が興味を持って取り組める遊びのプログラムを行っています。都合によりプログラム等が変わることもあります。事前にお問い合わせください。

ビックサタデー

スポーツのおもしろさ、楽しさを知ってもらうプログラム。それぞれの種目特有の体の使い方やテクニック、作戦などを身につけ、ゲームを楽しみます。特別期間などを除く土曜日に開催。
対象：小学4年生以上
場所：体育室
時間：10時30分～11時45分

□9・10月□バレーボール（9月23日、10月7日はお休み）
□11・12月□バドミントン（11月4日、12月16日はお休み）

土・日曜日、祝日に開催　造形スタジオ　クリエイティブコーナー

子どもだけで造形活動に取り組む場所。同じくらいの年齢の子どもたちが作業台を囲んで、たがいに刺激しあいながら、それぞれのイメージを“かたち”にしていきます。その時の造形スタジオの活動に関連したプログラムを取り上げます。1時間～1時間30分のプログラム。土・日曜日、祝日に開催。
対象：プログラムにより異なります。
場所：造形スタジオ
時間：10時～4時30分（原則）
※プログラムにより受け付け終了時間が繰り上がることがあります。

□9～12月□アートと造形（12月3日まで）
□12月□こども歳時記　クリスマス（12月9～25日）

サタデー・ラボラトリー

身近な不思議にチャレンジする“おもしろ体験プログラム”。科学遊び、クラフト遊び、室内ゲームなど、バラエティーにとんだラインアップ。研究員に登録してスタンプを集めると、すてきなプレゼントも。
対象：小学1年生以上
場所：プレイホール　※はフリーホール
時間：1時～4時

□9月　9日□エンジョイ・吹き矢
□　16日□ぱらぱらマンガをつくろう
□　30日□砂糖大変身※
□10月　7日□混虫（まぜむし）工場
□　14日□色のふしぎ
□　21日□石こうであそぼう
□　28日□クイズ100問答えてラリー
□11月11日□驚き盤
□　18日□ゆう／むすぶ／あむ～ひもを楽しむ～
□　25日□光のふしぎ※
□12月　2日□紙コップで「音・楽」しよう！
□　9日□ビデオであそぼう

ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部

じっくりと楽器の演奏にチャレンジ。一つの楽器を連続して取り上げます。初めて手にしたとき、2度目、3度目……少しずつ難しいことに取り組むことができます。何回も参加すれば、長い曲も演奏できるようになるかもしれません。特別期間などを除く土曜日に開催。
対象：小学3年生以上
場所：音楽ロビー
時間：2時～2時50分

□9～12月□三味線（9月23日、12月16日はお休み）

小牧さんが学童水泳東京大会で優勝

平成18年度「国民皆泳の日」第54回学童水泳大会・東京大会が7月28日に、東京辰巳国際水泳場で開かれ、「シニアスイム」受講生の小牧凌也さん(小5)が、男子100m個人メドレーに出場。1分26秒82のタイムで優勝しました。

「小・中学生土曜日パス」発売中

休館日以外のすべての土曜日に利用できる、小・中学生専用のフリーパスです。料金は2,500円で、発行日から1年間有効です。

このほか、小さい子を連れて遊びに来るお母さんたちのために、平日のみ使える大人向けの**「平日ゆうゆうパス」**（3,000円。1年間有効）もあります。

詳しくは、総合案内係【03-3797-5666】へお問い合わせください。

Bスタジオの催し

□9月10日□
不思議な映像実験室　**絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ**　11時～5時
映画やビデオのルーツ“動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）”の、さわって、見る展示と3種類のワークショップ。
ソーマトロープを作ろう（11時30分～12時30分）／**ピンホールカメラを作ろう**（1時30分～2時30分）／**フィルムに絵を描こう**（3時30分～4時30分）

□9月17・18日□
手作り楽器のワークショップ　**フィルムケースの笛**　1時30分～2時、3時30分～4時
フィルムケースを使った“かっこう笛”。幼児から参加できます。時間内随時受け付け。

□9月23・24日□
おもしろビデオ館スペシャル　**カートゥーン ネットワーク presents 大きい赤い犬 クリフォードの世界**　11時35分、1時35分、2時35分、3時35分
2階家と同じくらいの大きさの、赤い犬“クリフォード”――人気絵本の楽しいアニメ。

おもしろビデオ館　金曜日 3時30分～4階 Bスタジオ

親子で楽しむ“ミニビデオシアター”。2～4歳くらいの幼児向け作品を選んで上映。

《みんな知ってる昔話》
9月　8日：桃太郎／おむすびころりん
　15日：一寸法師／カチカチ山
　22日：浦島太郎／さるかに合戦
　29日：金太郎／わらしべ長者

施設見学

□6月22日＝東京都立文京高等学校3年生18人。〔こどもの城〕の事業内容・施設概要を知り、児童文化・児童福祉などへの意識を高め、人やものとの新しい出会いを体験するため。

■青山劇場　☎03-3797-5678　http://www.aoyama.org

インフォメーション INFORMATION

青山劇場

●サクラ大戦・歌謡ショウファイナル公演「新・愛ゆえに」
▽8月12～22日▽SS席＝12,000円、S席＝9,000円、A席＝5,000円、ファミリー席（S席）＝大人1人＋小学生以下の子ども1人＝14,000円
（問）03-5465-1030

●“Sachiko”Sachikoの愛したダンス、音楽そして出会った人々への愛のThanks
▽8月24日▽S席＝7,000円、A席＝6,000円、B席＝5,000円、C席＝3,000円
（問）042-572-9029

●TAIKO JAPAN 2006「第5回 東京国際和太鼓コンテスト」
▽8月26・27日▽大人＝2,500円、中学生以下＝1,000円
（問）03-6910-2513

●TAIKO JAPAN 2006「青山太鼓見聞録」〈打ち込みの美学〉
▽8月29日▽S席＝4,000円、A席＝3,500円
（問）03-3797-5678

●蒲田行進曲
▽9月12～27日▽S席＝9,500円、A席＝8,500円
（問）03-3372-6848

●奇跡の人
▽10月4～22日▽S席＝8,500円、A席＝6,500円
（問）03-3490-4949

青山円形劇場

●大野靖之コンサート Feel the Wind～それぞれの情景
▽8月26・27日▽3,500円
（問）03-3498-9999

●TAIKO JAPAN 2006「トーク&ミニライブ　太鼓見聞録外伝」
▽8月28日▽2,000円
（問）03-6910-2513

●Live! Rhythm Designer～Shuichi “PONTA” Murakami Solo Performance 2006～
▽7月30日▽5,250円（当日＝6,300円）
（問）03-3470-9999

●PARCO PRODUCE Noel Coward's COMEDY「プライベート・ライヴス」
▽9月4～24日▽7,500円
（問）03-3477-5858

●日韓ダンスコンタクト　Vol. 7
▽9月26・28・30日▽3,000円
（問）03-3797-5678

●ROLLY Glory Rolly 2006
▽10月26～29日▽7,000円
（問）03-3797-5678